

発展と躍動<体験・情報・総合スポーツ>

活性と保全<賑わい・創生・リラックス>

継承と創造<防災・未来・マリレジャー>



癒しの空間「原風景」と「未来への創造」  
国道134号沿線の活性化に関する基本方針

平成27年11月

茅ヶ崎市



# 1 経緯

近年、本市を取り巻く環境は大きな変化を迎えています。

本年3月8日には、圏央道の一部を構成するさがみ縦貫道路が全線開通し、広域的な人、物の交流の拡大により、湘南地域のゲートとなる本市は、地域経済活性化の大きなチャンスを迎えることとなりました。

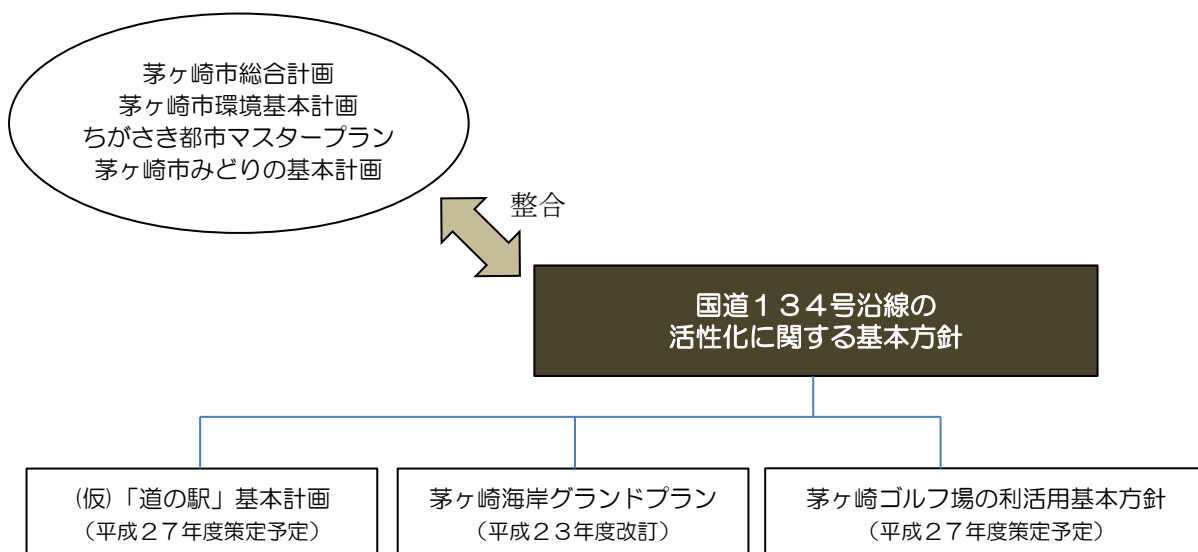
また、地方創生を推進するため、国が策定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」に基づき、平成27年度には、本市としても「地方版総合戦略」を策定し、地域の特性を十分に生かした向こう5か年の地域活性化のための戦略計画を進めることとしています。

さらに、急激に進展する高齢化に対応し、高齢者になっても豊かで生きがいのある生活をおくることができ、様々な世代が支え合い持続的な地域社会を形成するため、本市では、本年2月に「豊かな長寿社会に向けたまちづくりの基本方針」を策定し、本年度より、様々な施策を総合的に推進しています。

このような中、本市のシンボルであり、最大の“魅力ある資源”である、海岸線に位置する国道134号沿線では、様々な土地利用の動きが進みつつあります。

このような背景を受け、国道134号沿線における様々な土地利用が個々に進行するのではなく、相互に連携し、かつ機能分担を行いながら、相乗的な効果を上げていくため、本年3月より「国道134号沿線の活性化に関する有識者会議」を開催し、有識者のアドバイスを受けながら、「国道134号沿線の活性化に関する有識者会議まとめ」として取りまとめました。

本方針は、有識者会議の設立趣旨や「国道134号沿線の活性化に関する有識者会議まとめ」を受け、国道134号沿線におけるまちづくりの方向性を示し、個々の計画立案に反映するため定めるものです。



## 2 国道134号沿線における現状

相模湾に面している本市では、毎年10月から5月頃にかけて、低気圧の通過後などに強い南西風が吹き荒れるため、潮風や飛砂による被害を低減させるための砂防林が存在しています。砂浜の厳しい環境のなか、成長した砂防林は、白砂青松の美しい景観に寄与するとともに、道路や海浜部からの騒音低減や津波被害の軽減、温室効果ガスの吸収など多様な機能を有しています。

また、海浜部は、海岸景観地等の保全と利用を目的に、昭和12年に湘南海岸公園として都市計画決定されています。しかし、河川を通じて供給されるであろう土砂がダム建設や砂利採取の影響で海岸まで到達しないことも影響して、砂浜は全体的に侵食され、かつての海岸の趣が失われつつあります。

一方、JR東海道本線茅ヶ崎駅は、比較的、海に近く徒歩で海まで行くことも可能な距離に位置しています。また、平成26年度には「国道134号」の4車線化が完了するとともに、圏央道の一部を構成する「さがみ縦貫道路」が開通し、平成32年には「横浜湘南道路」が開通予定となっていることから、県央や北関東から箱根・伊豆方面や江ノ島・鎌倉方面に向かう交通結節点となります。

また、国道134号沿線における施設では、平成29年度末の開設を目指す「(仮称)柳島スポーツ公園」、平成31年度開設を目指す「道の駅」、相模川流域下水道左岸終末処理場を上部利用する「しおさい広場」、本格営業の始まった「柳島キャンプ場」、団地の再整備が進む「浜見平地区」、夏の代名詞「サザンビーチちがさき」、遊漁船で賑わう「茅ヶ崎漁港」、今後の利用検討が進む「県営茅ヶ崎西浜駐車場跡地」、広大な敷地を有し今後の利用方法が課題となっている「茅ヶ崎ゴルフ場」など、様々な土地利用に関する計画や議論が進んでいます。

その他にも、沿線には、「旧南湖院」「茅ヶ崎館」「氷室椿庭園」などの歴史的建造物や「茅ヶ崎公園野球場」「小和田浜公園」「県立湘南汐見台公園」「茅ヶ崎ゆかりの人物館」「開高健記念館」「なぎさギャラリー」「小中学校」「県立高校」などの公園や公共施設が多く点在しています。

さらには、海辺の空間としてくつろぐことが出来る「ヘッドランド周辺のボードウォーク」、親しみや安らぎを与えてくれる砂防林内の「しおさいの森」、かつて歌に謳われてきた「名所」や個々の中にある「思い出の地」、「烏帽子岩」や「江ノ島」、「富士山」などの眺望ポイントなど、本市のみならず多くの景勝地も含め、その魅力は多く存在しています。

### 3 国道134号沿線の魅力

茅ヶ崎の特に国道134号沿線においては、“サーフィン”に代表されるマリンスポーツや、加山雄三、サザンオールスターズなどの音楽を通した「海」のイメージが鮮烈ですが、その魅力は「海」ばかりでなく、かつての別荘地の趣などに代表されるように、この地に育つ「文化」が、豊かで独自性に富むものであることだと感じている人は多いはずです。

かつての茅ヶ崎は、気候や・風土・豊かな自然から保養地や別荘地として好まれていました。現代では都心に近い海岸エリアとして、週末を快適に過ごすための居住地の地として選ばれています。

また、烏帽子岩や江ノ島、富士山への「眺望」や個々の中にある「名所」や「思い出の地」、点在する「歴史的建造物」や「公園」、「屋敷林」なども茅ヶ崎の魅力の一翼を担っています。

「住まう人の暮らし方」や「茅ヶ崎で過ごす時間」など、そのスタイルそのものが茅ヶ崎の魅力（地域ブランド）であるといえます。

### 4 国道134号沿線の魅力向上への課題

茅ヶ崎の魅力についてみれば、全体としての地域像が確立しているとは言えず、また、あったとしても有機的に連携しているとはいえない状況です。

また、個人が所有する別荘跡等の財産については、保存樹林としての維持管理の助成等により、その存続について支援を行っていますが、相続等の事情により減少してきていることも事実です。

さらに、地域ブランド力のひとつである「海」についても、海岸線の侵食などによりイメージが毀損してきており、かつてのイメージを取り戻すためにも、一辺倒な保全策だけでなく、養浜や植栽など一定の人工的保全策や、魅力ある海に親しんでいただくための駐車場の適正な配置が求められるとともに、海岸線の要所と街中を結ぶ公共交通の充実が必要となっています。

しかし、昨今の基礎自治体は全国的にも厳しい財政状況であり、本市のまちづくりにおいては、自治体の財源だけではなく個人や企業からの資金力にも着目し、それらが連携した中で循環する仕組みづくりを構築する必要があります。

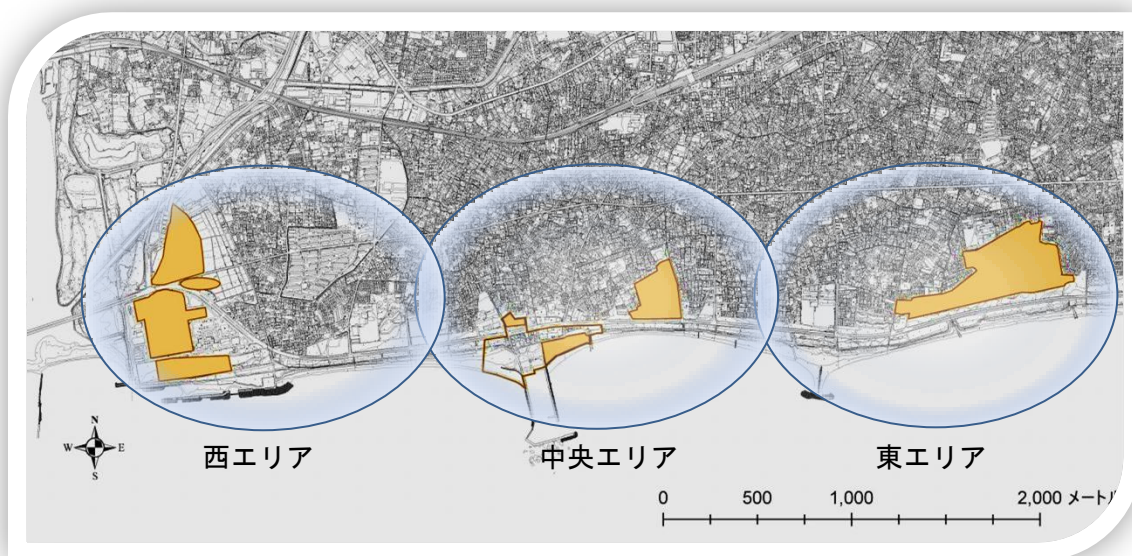
## 5 国道134号沿線の活性化に向けた基本的事項

### ～癒しの空間「原風景」と「未来への創造」～

将来に向けたまちづくりには、茅ヶ崎の持つ気候や風土、豊かな自然、地域ブランドである「暮らし方」などの原風景を意識しそれらを大切にするとともに、交通の結節点として広域的視点に立った幅広い取り組みとしての未来への創造が必要となります。

そうした中、これから茅ヶ崎の魅力を発信するであろう、現在進行中の取り組みは、その機能をそれぞれが分担し、お互いに連携しあいながら、繋がることにより、点正在している茅ヶ崎の魅力をいっそう輝かせる役割があります。

国道134号沿線は東西に約6kmを有し、それらを、線・面で捉えてまちづくりを進める必要があります。約6kmの沿線の中でも、次の3つのエリアにおいては、それぞれ特徴を有しており、それらが、機能的に役割分担し有機的に連携することで、全体として魅力を向上させ、国道134号沿線における「原風景」と「未来への創造」に資するまちづくりを進めます。



- ・西エリア 柳島キャンプ場・しおさい広場・(仮称)柳島スポーツ公園・道の駅整備候補地等を有するエリア
- ・中央エリア 茅ヶ崎漁港、茅ヶ崎西浜駐車場跡地、サザンビーチちがさき・茅ヶ崎公園野球場等を有するエリア
- ・東エリア ボードウォーク、茅ヶ崎ゆかりの人物館、茅ヶ崎ゴルフ場等を有するエリア

## 6 国道134号沿線のまちづくりの方向性

前項の基本的事項を踏まえ、それぞれ特徴を有している3つのエリアにおける「まちづくりの方向性」は、次のとおりとします。

茅ヶ崎の玄関口である、茅ヶ崎駅や高速道路のインターチェンジから各エリアまでの道のりについて、それぞれを有機的に連絡するため、適正な駐車場の配置やシェアサイクル、コミュニティバスなど、茅ヶ崎ならではの公共交通を充実させることにより、さらに回遊性を高めます。

これにより、地域の魅力を有機的に連携し、茅ヶ崎で過ごす時間の中で、それら魅力を実に体験し、また、感じてもらう、まちづくりを目指します。

例えば、自家用車を利用した来訪者に対応する駐車場やトイレ、周辺案内などの利便施設の適正配置や、駅や駐車場に設けられたシェアサイクルによる乗り換え拠点の充実などにより、ひとつの目的地にとどまることなく、市内に点在する魅力ある場所への回遊性を強化します。

また、目的地までの主たる道のりにおいては、来訪者にとっても、生活者にとっても心が満たされるよう、道路空間における緑化の推進や沿道の修景など、快適で潤いある空間づくりを進めます。

さらに、海を求めて来訪する人にとっては、目的地などから直接「海」にアプローチできることが期待されるため、これまで以上に海へのアクセスを高める方策を検討します。

### 1) 西エリア ～湘南の玄関口としてのスタイルづくり～

西エリアは、圏央道の一部を構成する新湘南バイパスのインターチェンジに最も近接し、県央や北関東からの湘南地域への入口でもあり、沿線地域全体の発展と躍動を期待するエリアです。

「(仮称)柳島スポーツ公園」や「しおさい広場」などのスポーツレクリエーション施設、「道の駅」や「柳島キャンプ場」などの休息施設、「柳島キャンプ場」や「道の駅」の背後に広がる農地を活かした体験活動、「網元料理店」などの集積があります。

それらの資源が機能的に活用・連携強化した「茅産茅消」「情報発信の充実」や、西に望む「富士山への眺望」などを活かし、体験、情報、総合スポーツをテーマとした『湘南の玄関口としてのスタイルづくり』を目指します。

## 2) 中央エリア ～海辺空間の保全と賑わい施設との融合～

中央エリアは、茅ヶ崎駅に最も近接し、海岸にアクセスしやすいエリアでもあり、これまでも多くの来訪者が訪れています。そうした魅力を後世にも引き継ぐためにも、バランスを考えた活性と保全が求められるエリアです。

「サザンビーチちがさき」や「茅ヶ崎サザンC」、「茅ヶ崎漁港」など一年を通して表情豊かな海をゆったりと楽しむ空間、「浜降祭」や「花火大会」、「湘南祭」、「茅ヶ崎海辺の朝市」などの賑わいイベントを有しています。

それらの資源を適切に配置するための「漁港背後地の回復」、「商業施設の集積」や、西は富士山、南は烏帽子岩、東は江ノ島への「眺望」を活かし、賑わい、創生、リラックスをテーマとした『海辺空間の保全と賑わい施設との融合』を目指します。

## 3) 東エリア ～防災と環境に配慮した和み空間の創造～

東エリアは、閑静な住宅街に隣接し、防災面での安心を提供している空間が広がるとともに、近隣の人々がゆったりと過ごす浜辺空間が広がるエリアであり、継承と創造が期待されるエリアです。

「茅ヶ崎ゴルフ場」の防災機能を備えた広大なみどりの空間、「ボードウォーク」周辺でのマリンレジャーを通じた和み空間を有しています。

これらの資源の継承や未来に備えた空間、ビュースポットとして歌にも謳われるラチエン通りからの烏帽子岩への「眺望」を活かし、防災、未来、マリンレジャーをテーマとした『防災と環境に配慮した和み空間の創造』を目指します。

なお、茅ヶ崎ゴルフ場については、敷地面積の6割を所有する神奈川県に対し、本市のまちづくりを担う責任と役割を果たすよう、協力を求めています。



## 7 今後に向けての留意事項

### 1) 「海」を主体としたまちづくり

「国道134号沿線のまちづくりの方向性」を達成するためには、国道134号の各エリア（西エリア、中央エリア、東エリア）の特徴を活かし、また、他の地域から羨望される“海”を保全し再生するまちづくりの視点が必要です。

この場合、地域の最大の魅力である“海”を主体に考え、さらに、国道134号沿線全体のまちづくりをマネジメントし取り組む必要があります。

### 2) 広域的な取組みによるまちづくり

国道134号では、本市のみならず、沿線各地域において個性あるまちづくりが展開されており、今後は、相模湾沿岸域をつなぐ広域連携によるまちづくりを進める必要があります。

### 3) 時間軸に照らした実効性のあるまちづくり

今後予定される各種整備事業等については、個々の事業化プログラム（実施主体や時期等）を明確にし、また、各整備事業間相互の連携が必要です。

特に、国道134号沿線における既定計画等（「茅ヶ崎海岸グランドプラン」など）に関しては事業主体や事業実施の時期を地域の事情を踏まえ早急に検討する必要があります。

### 4) 循環型社会の構築を意識したまちづくり

国道134号沿線のまちづくりでは、地域の活性化と“海の保全と再生”との連携が必要です。そのため沿線の地域まちづくりを“海の保全と再生”につなげる資金循環の仕組みが必要となります。

8 国道134号沿線の活性化に関する基本方針図



## 「国道134号沿線の活性化に関する基本方針（素案）」 についてのパブリックコメント実施結果

－ご協力ありがとうございました。－

- 1 募集期間 平成27年8月27日（木）～平成27年9月26日（土）
- 2 意見の件数 66件
- 3 意見提出者数 37人
- 4 内容別の意見件数

分類	項目	件数
1	計画の位置づけに関する意見	11件
2	まちづくりの方向性に関する意見	3件
3	今後に向けての留意事項に関する意見	1件
4	「道の駅」に関する意見	9件
5	「西浜駐車場」に関する意見	1件
6	「茅ヶ崎ゴルフ場」に関する意見	8件
7	沿線の駐車場に関する意見	1件
8	沿線の自然環境・景観に関する意見	5件
9	防潮堤によるテストケースに関する意見	1件
10	有識者会議に関する意見	15件
11	パブリックコメントの位置づけに関する意見	1件
12	その他の意見	5件
	市民要件を満たさない意見	5件
合 計		66件

= 一部修正を加えた項目

## 「国道134号沿線の活性化に関する基本方針（素案）」 パブリックコメントの実施結果（新旧対照表）

修正後	修正前
1 経緯  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">茅ヶ崎ゴルフ場の利活用基本方針 (平成27年度策定予定)</div>	1 経緯  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(仮) 茅ヶ崎ゴルフ場に関する基本方針 (平成27年度策定予定)</div>
7 今後を受けての留意事項 4) 循環型社会の構築を意識したまちづくり	7 今後に向けての留意事項 4) 循環型のサイクルを意識したまちづくり

茅ヶ崎市 企画部 企画経営課 企画経営担当  
電話 0467-82-1111（内線2461）

(参考) 国道134号沿線の活性化に関する有識者会議 開催日程

- 第1回有識者会議 平成27年3月30日(月) 現在の課題と関連計画等の整理
- 第2回有識者会議 平成27年4月27日(月) 国道134号を取り巻くポテンシャル、沿線の将来像
- 第1回作業部会 平成27年5月27日(水) 国道134号沿線の活性化に関する意見交換等
- 第2回作業部会 平成27年6月12日(金) 国道134号沿線の活性化に関する意見交換等
- 第3回作業部会 平成27年6月23日(火) 作業部会での意見の確認
- 第3回有識者会議 平成27年7月13日(月) 市外から見た茅ヶ崎の魅力、沿線の将来像等
- 第4回作業部会 平成27年7月31日(金) 作業部会での意見の確認
- 第4回有識者会議 平成27年8月7日(金) 有識者会議での意見の確認・総括

(参考) 国道134号沿線の活性化に関する有識者会議名簿 (※:委員長 ◎:作業部会)

氏名	所属等	
斉藤 進	産業能率大学情報マネジメント学部 教授	※
木下 瑞夫	明星大学理工学部 教授	
山口 洋一郎	特定非営利活動法人 茅ヶ崎海岸づくり推進機構 理事長	◎
藁品 孝久	特定非営利活動法人 湘南スタイル 理事長	◎
前川 義憲	茅ヶ崎商工会議所 副会頭	
田中 賢三	一般社団法人 茅ヶ崎市観光協会 会長	
大川 静雄	さがみ農業協同組合 茅ヶ崎地区運営委員長	
米山 時晴	茅ヶ崎市漁業協同組合 組合長	
宇野 輝夫	有識者市民	◎

国道134号沿線の活性化に関する基本方針

平成27年(2015年)11月発行

発行:茅ヶ崎市

編集:企画部企画経営課・経済部産業振興課

〒253-8686

神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号

電話:0467-82-1111

ホームページ: : <http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/>